

1次診療病院における 下痢治療の現状

— 下痢の発症メカニズムから考える薬剤の選択とその臨床効果 —

ACプラザ荻谷動物病院

葛西橋通り病院 白井活光

明治通り病院 荻谷和廣

はじめに

前稿では、下痢治療のアプローチ調査結果に基づき、どのような薬剤が下痢治療に用いられているのかを紹介した。

本稿では、下痢治療によく用いられる薬剤が、急性下痢の発症メカニズムに対し、どのように作用するかを紹介する。また、動物用止瀉剤「デジアバスター錠」と整腸剤「ビオイムバスター錠」の臨床効果を検証する。

急性下痢の発症機序

下痢は腸管内水分の出納の異常であり、その発症機序は浸透圧性、分泌性、滲出性の下痢と腸の運動異常に分けられ、その要因は様々である（表1）。すなわち、細菌やウイルス、寄生虫やそれに伴って生じた炎症反応により腸粘膜がダメージを受けると、食物の消化や吸収不良を招いたり、滲出が亢進される。また、細菌の毒素や神経伝達物質は刺激物質となり、消化管運動

や分泌を亢進する。感染症やストレス、抗生物質などが腸内細菌叢に異常をきたすことも発症要因の1つとなる。さらにこれらの要因は相互に関連し合い、症状の悪化を促すこともある。

急性下痢の病態と薬物の関係

前稿で挙げた下痢治療に用いられる薬物（p.15、表3）が、下痢の病態に対しどのように作用するのかを図1に示した。このように複数の病態が複雑にかかわりあう下痢では、それぞれの病態に対する薬物投与が必要であり、様々な薬物が使われる。非現実的ではあるが、これらの病態に薬理作用の異なる有効成分を数多く含む薬剤が理想的である。逆を言えば、下痢の原因や病態、薬物の薬理作用をきちんと捉えることができれば、効果的な治療が期待できる。

動物用止瀉剤と整腸剤の臨床効果

動物用止瀉剤「デジアバスター錠」と整腸剤「ビオイムバスター錠」（ともに共立製薬株式会社）は、ど

Key Points

- ① 止瀉剤は、腸粘膜を保護し、炎症や消化管運動を改善する。また、整腸剤は、腸内細菌叢を整え、消化や吸収を正常化する。
- ② 動物用止瀉剤の臨床効果は、平均の完治率81%、完治期間4日であった。整腸剤による完治率は72%、完治期間5日であった。両薬剤の併用により、臨床効果（完治率97%、完治期間3日）は高まった。
- ③ 動物用止瀉剤と整腸剤の単独使用には、それぞれ臨床上のメリットとデメリットがあるので、飼い主にはきちんと説明することが重要である。